

令和4年度（2022年度）
第2回熊本市公民館運営審議会

別冊資料



目 次

令和4年度（2022年度）重点事業 実践事例

	ページ
(1) 学習機会（公民館講座）の充実	1
① 関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	3
② 震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施	12
③ あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	16
④ 地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	20
＊ 人権教育・啓発関連「講演会」「講座」等の実施状況（予定含）	25
＊ 人権コラム ホッと♡スペース	34
(2) 学習成果を生かす環境づくり	41
① ボランティアや地域人材等の養成講座の実施及び活動機会の情報提供	43
② 公民館、学校、地域等での学びを生かす活動の拡充	49
③ 地域の学習グループやボランティア団体の活動支援及び地域コミュニティ形成の支援	62
(4) 新しい生活様式に適応した事業の展開	65
① 公民館オンライン講座（動画配信・双方向型）の実施	67
② デジタルディバイド（インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる人と 利用できない人との間に生じる格差）対策を含めた ICT 講座の実施	74
③ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施	85

令和4年度(2022年度)重点事業

(Ⅰ) 学習機会

(公民館講座) の充実



- ① 関係課や関係機関(NPO等)と連携した講座の実施
- ② 震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施
- ③ あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施
- ④ 地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施

学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	◎
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	○
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	

中央公民館

講座名：心の気づき傾聴講座

期日：令和4年 7月6日・13日・20日（毎回水曜日） **時間：**午前10時～正午

場所：会議室 **対象：**どなたでも **費用：**無料

連携団体（講師）：NPO法人傾聴ネットキーステーション 副理事長

概要

心に寄り添い、言葉に耳を傾け、プラスに評価しながら話を聴くことを学ぶもの。日々の生活、仕事、ボランティア活動など様々な場面で役に立つことを目的に開設。

講座のようす

17人受講

短い時間の中で楽しく傾聴の基本的な知識とスキルをしっかりと学ばれていて、好評の講座であった。初めての人でも安心して学ぶことができ、傾聴の知識を分かりやすく説明されていた。

成果と課題

○60歳過ぎてから、それまでの肩書の顔を一日も早く捨て去ることが大事との意見。

○傾聴講座を定期的で開催してほしいなどの意見があった。

今後、傾聴ボランティア講座など市民が求める養成講座も開設していきたい。



学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	◎
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	

東部公民館

講座名：町の幸福論

期日：令和4年11月8日（火） 時間：午後2時～4時（第1回目）

場所：熊本市立月出小学校（6年生教室） 対象：月出小学校6年生児童及び教職員 費用：無料

連携団体または 講師：東部まちづくりセンター地域担当職員、東部公民館社会教育主事、月出3町内自治会長、県立大学准教授
概要：

月出小より、国語「町の幸福論」という教材文で学んだことを基に、「自分たちにできるまちづくりのアイデアをプレゼンにまとめる」という学習を行うため、月出のまちづくりについての講話依頼があった。

それを受け、月出校区のまちづくりについて、地理的特徴、人口の分布、自治会の活動などを月出の地域担当職員に話してもらった。その際の参加者は小学生70名と教職員4名であった。

当初は地域担当職員の話を受けて、子どもたちがまちづくりについての提案を考え、その発表会に参加するという計画を立てていた。しかし、プレゼンを作るに当たり、子どもたちから多くの質問が出たため、急遽、自治会長の協力を得て、ZOOMを使った質疑応答の時間も設定した。講座の流れは下記のとおりである。

第1回目（まちづくりセンター職員による授業）

第2回目（まちづくりセンター職員及び自治会長による質疑応答）

第3回目（子どもたちによるプレゼン発表会）

プレゼン発表会の当日は、地域担当職員、自治会長、県立大学の准教授にも参観していただいた。子どもたちのまちづくりに対する提案を聞き、それぞれの立場での率直な感想を交流することができ、大変有意義な時間となった。

成果と課題：

子どもたちからは「県立大学の先生、市役所の人が見に来てくれました。私は、月出校区のごみ問題について発表しました。他の班は、少子高齢化や不審者、道が暗い、若者の居場所が少ないなどの発表をしていてそれにあった事例や提案などがあってすごいいいと思いました。他の人たちが伝えたいことが言えたのでよかったし、ちゃんと提案したことができるように頑張りたいです」「今日発表した提案が、本当に実行できるようにしたいです。スーパーにポスターを貼ったり、イベントを開くのは、地域のみなさんたちと協力してできるから、県大とかで、広めれたらいいなと思いました」との声が聞かれた。自治会長や地域担当職員など、まちづくりを支えている存在に気づけ、地域にある大学の准教授ともつながることができた。この取組を通して、点と点で活動していた団体同士が線としてつながり、まちづくりを進めていく基盤がより強固になったように感じる。その中心に、子どもたちがいたというのがとても大きい。管内の他の小学校にもこの取組を広げたいと感じた。



学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	◎
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	

託麻公民館

講座名：試買量目審査会（託麻西小家庭教育学級）

期日：令和4年10月12日（水） 時間：午前9時半～午後1時半

場所：託麻公民館 調理室 対象：託麻西小家庭教育学級生 費用：無料

連携団体：熊本市経済観光局 産業部 経済政策課 計量検査所

概要

夏休みに、はかりと単位の話を知ったり、はかりを作ったりする計量教室を開催した。その時に、計量検査所の職員より計量に関する講座の案内がいくつかあった。その案内に興味をもった学級生が、今回の講座を企画したいということで実現した。

普段から購入している商店や、スーパーマーケット等で販売される内容量が、適正かどうか調べるため、学級生が三千円の買い物をした。そして、中身を開封し、実際に計量してグラム表示と内容量に相違はないか確認していった。

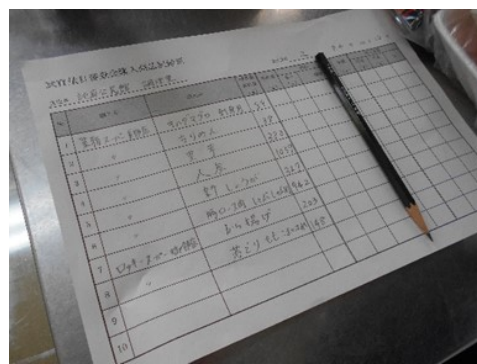
講座のようす

説明を聞いた後、参加者6人は別々のお店に行き、精肉、魚介類、お惣菜、青果物等の生鮮食料品を購入した。公民館の調理室で開封し、グラム表示が適正かどうか、計量検査士とともに計測した。グラム表示してある数値と中身のグラム数に誤差はあるものの、ほとんどの商品が適正な商品であることを確認した。

成果と課題

食品の表示が適正かどうか、計量課の職員が不定期に店を訪問し、確認していることがわかり、消費者が安心、安全に買い物ができるように行政が働きかけていることを改めて理解されたようだった。また、6人が別々の店で購入したにもかかわらず、どこの店も適正な商品が多かったため、地元の店への信頼度が増した。

今回、計量検査所と連携して講座を運営していったが、他にも連携できそうな課や関係機関があると思うので、情報収集に努めてきたい。



学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	◎
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	

幸田公民館

講座名：ベビーからのイングリッシュ

期日：令和4年10月19日・26日・11月2日・9日・16日 時間：午前10時～12時

場所：幸田公民館 対象：0歳～1歳未満と乳幼児・1歳～3歳未満幼児と保護者 費用：無料

連携団体または講師：渡邊 ドリーナ マリア

概要

0歳～1歳の乳幼児対象、1歳～3歳未満の幼児対象の英語講座を5回シリーズで実施した。この講座は、共生社会に向けて、幼い頃から、英語にふれていただき、これからの子育てに役立ててられることを狙いとして開設した。

講座のようす

応募は、28組の親子からあり、抽選で各10組が当選し、0歳～1歳の乳幼児は、ヒアリングを中心に、1歳～3歳未満の幼児は、英語音楽を中心に体を動かしながら、楽しく参加された。

成果と課題

【成果】・若い世代（親）対象の公民館講座の為、公民館の認知度を上げることができた。

・外国人講師の英語講座で、生きた英語を体感する機会となり、「楽しくて、よかった。来年も開いてほしい。」との声が、多数聞かれた。

【課題】・定員を超える応募があり、抽選で、どうしても講座にもれる方が出てしまうこと。



学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	◎
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	

天明公民館

講座名：SDGsの第1歩!段ボールコンポスト講座

期日：令和4年 9月14日（水）、 時間：午後2時～午後3時半、 場所：A会議室

対象：どなたでも 費用：無料、 連携課：熊本市環境局ごみ減量推進課

連携団体（講師）：宇城市段ボールによる生ごみ堆肥化を推進する会

概要

ゴミ処理問題の現状では、可燃ごみの増加が大きな問題で、その処理には大量の燃料が必要になる事や燃焼の際のCO2の発生に伴う温暖化は言うまでもない。それを防ぐには、これらの再資源化つまり堆肥化が急務である。家庭から出るごみの減量方法として、段ボール箱を使った生ごみの堆肥化がある。熊本市としてもこれを推進しており、リサイクルの推進とごみ減量の啓発を兼ねて熊本市環境局ごみ減量推進課と連携し実施した。

講座のようす

長年ごみ問題の啓発に取り組まれてる「宇城市段ボールによる生ごみ堆肥化を推進する会」のメンバーの方を講師に迎えて実施した。ごみ問題の現状や解決のための道すじや取り組みの説明後、実際、段ボール箱を使った生ごみ処理方法を、段ボール等の組み立てや新聞紙を使った中敷きや通気性の維持などをその組み立てを通して体験した。

成果と課題

段ボールコンポストによるごみの減量化はもとより、電気を使わずに済み、また、発酵促進のための薬剤なども使用せず微生物の力だけで生ごみを分解できる。さらに、できた堆肥は有機物で作られたものなので、安心安全な肥料として家庭菜園などで使用できる。環境にもやさしく、省エネにも効果的で、SDGsの理念にも一致するもので、これらの説明が講師の先生からなされると、講座に参加した方々はとても納得されていた。

課題としては、参加した方の中には、実際に自宅で実践された方もいたが、うまくいかなかったという事で、いろいろと質問されていた。「なぜうまくいかなかったのかがよくわからないと納得できない」という方もいた。講師の先生からアドバイスはあったが、このように、微生物など自然が相手による堆肥化なので、それがうまくいく条件や細かいデータが提供できればよかったと感じた。



学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	◎
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	○

富合公民館

講座名：春の新幹線車両所見学！

期日：令和4年 5月 25日（水） 時間：午前9時15分～12時

場所：JR九州熊本総合車両所 対象：幼稚園児と保護者 費用：無料

連携団体または 講師：JR九州総合車両所職員の方

概要

富合町のJR九州熊本総合車両所にある新幹線の車両基地。有事の際に北、南どちらにも迅速に対応しやすいように、九州の中心地である富合町に設置してある。富合公民館からも近く、普段からも新幹線見学隊として、施設見学も実施しておられる。

小学校の社会の授業でも学ぶ九州新幹線。JR九州熊本総合車両所と連携し、公民館の主催講座として施設見学を実施することで、市政だより・地域回覧広報誌・館内掲示や広告・富合公民館ホームページ等でも幅広く告知し、車両基地をたくさんの方に知っていただく機会を増やせたらと思い、実施した。

講座のようす

公民館に集合後、子ども達、保護者の方と一緒に車両基地まで歩いて行った。現地では、担当職員の方から新幹線車両基地についての説明があった。車両基地についての説明やクイズの後に、車両基地の見学を行った。また、新幹線の中に入ったり、新幹線の正面で記念撮影を行ったり、誕生日の子どもは特別にアナウンスしてもらったりと、楽しく学ぶことができた。

成果と課題

OJR職員の方と連携して、地元にある車両基地を詳しく知ることができた講座を行うことができた。九州新幹線の車両基地の中に入り、新幹線や車両基地を間近で見学しながら説明を受けることができた。また公民館の広報で初めて見学できることを知ったという方がもおられ、広報した効果があった。

O子どもたちや保護者の方も名前や場所は知ってはいたが、実際に見学することで施設内でどのような活動をされているか、職員の方々の仕事内容や苦労等を詳しく知ることができた。

O近くにある病院に入院している子どもたちが、いつも病院の窓からしか見れない車両基地に入れると喜んで参加した。

△見学日が平日にしか行っていないため、参加できる対象が限られる。今後は長期休み中に開催することで、対象をさらに広げたい。



学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	◎
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	

飽田公民館

講座名：デジタルディバイド解消講座「スマホ体験講座」

期日：令和4年8月24日（水） 時間：午後2時～午後4時

場所：飽田公民館 対象：スマホ操作が苦手な高齢者 費用：無料

連携団体または 講師：softbank社

概要

南区6公民館の合同企画、デジタルディバイド解消講座の第1弾として「スマホ体験講座」を実施した。この講座は、情報弱者となっている高齢者の方々を対象に電子機器の便利さを体験していただき、生活に少しでも役立てられることを狙いとして開設した。

募集にあたっては、まちづくりセンターの担当と協力し、地域での参加者募集の広報や自治会を通しての案内等で参加者を募った。

講座の様子

参加者12人は、持参の携帯電話や講師よりお借りした携帯電話で、電話の操作や情報の取り出し方などの操作を学習した。大学生の講師補助もあったことで細やかなスマホ操作体験ができ、受講された方も喜んでおられた。

今後の課題としては、受講者募集の広報やスマホ活用に向けての講座と進める場合に、機種の違いによる操作手順やスマホ環境の違いを事前に掌握し、学習の場の設定を再考しなければならないことがある。

成果と課題

受講された方の感想として「良かった」との声をいただいたが、希望としては1回ではなく複数の受講機会が欲しいとあったので、後に「活用講座」として開く講座への案内を行った。

課題としては講師や借用機材の確保、大学生の補助講師を募ることが難しく、事前準備に条件が合う講師や時期の事前検討に配慮が必要となる。



学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	◎
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	

北部公民館

講座名：北部ふれあいクリスマス交流会

期日：令和4年12月17日（土） 時間：午後1時半～3時半

場所：北部公民館 大会議室 対象：北部公民館管内の小・中学生の特別支援学級生、北部キッズ遊学塾生、障がい者支援施設チャレンジ明德の里利用者 他

概要

今回で30回目を迎えた北部ふれあいクリスマス交流会。「地域の子は地域で育てる」「隣の人が隣の人を支え合える温かい北部にしたい」という理念のもと、障がいがある人もない人も北部の仲間として一緒にクリスマスを楽しもうという目的で開催されてきた。北部高校生ボランティアサークルわいわいHVC、北部地域青少年健全育成協議会、北部公民館の3団体が主催で、北部中学校とチャレンジ明德の里が協力して会の運営に携わっている。

講座のようす

コロナ禍ということで、例年行ってきたクリスマスケーキ作り等の活動はできないので、今回は、北部中学校JRC部員によるハンドベル演奏、サンタさんの折り紙づくり、すごろくゲーム、サンタさんとトナカイさんからのプレゼント渡しなどコロナ禍でもできるイベントで楽しんだ。

成果と課題

コロナ対策を十分に行った上での開催で、クリスマスケーキ作り等従来行ってきた活動はできなかったものの、コロナ禍でもできる活動を主催者3団体協議して、楽しく安全に行うことができてよかった。

ただ、北部公民館管内の小・中学校の特別支援学級の子どもたちに参加案内を配り、参加の呼びかけを行ったが、小学校、中学校からの参加が少なかった。障がい者支援施設チャレンジ明德の里については、コロナの影響が大きく、参加者がなかった。コロナ禍ということだけではなく、ここ数年、ほくぶキッズ遊学塾以外の参加者が減る傾向が続いており、誰もが、気軽に参加できるような案内の仕方や会の内容を考える時がきているように感じられる。主催の3団体でしっかり考えて、次年度の北部ふれあいクリスマス交流会に活かしていきたい。



学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	◎
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	

龍田公民館

講座名：段ボールコンポストでゴミ減量

期日：令和4年 10月29日（土）、 時間：午後1時30分～午後3時30分、 場所：A会議室

対象：どなたでも 費用：無料

連携団体（講師）：熊本市 ごみ減量推進課（間 澄子さん）

概要

熊本市ではごみを減量するために、家庭から出る生ごみの堆肥化を推進している。その堆肥化の方法のひとつとして、竹チップのはいった段ボールを使用し、微生物の力によって生ごみを分解する方法を学習する。また、熊本市のごみの現状やごみの分別などについて学び、ごみを減らしていこうとする意識を高める。

講座のようす

前半は熊本市のごみの現状について学習した。ごみを減らすためには、ごみとして廃棄するのではなく、分別してリユース・リサイクルすることが有効であること、家庭から出る生ごみは燃やすごみの多くを占め、さらに水分を含むため焼却しにくいことを学んだ。

後半は、実際に段ボールコンポストの材料を手にして、家庭でどのように使っていけばよいか、具体的に学習した。微生物のはたらきを高めるために、定期的にかきまぜることや、どのような場所に設置したらよいかなど、注意点についても学んだ。

成果と課題

参加者の方は、自宅に帰ってからすぐに始められるように、講座の中で段ボールコンポストの準備をすることができたので、すぐに始めることができた。材料（竹チップ）がなかなか入手できないので、入手目的での参加もあった。今後は、より多くの市民に知ってもらい、受講生を集める広報の手段が課題だと感じた。



学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	◎
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	

秋津公民館

講座名：あさひば みんなの防災フェスタ（第4回 避難生活体験）

期日：令和4年 11月19日（土） 時間：午前10時～正午

場所：秋津公民館 ホール、ピロティ 対象：どなたでも 費用：無料

連携団体または 講師：秋津まちづくりセンター職員、秋津公民館社会教育主事

概要：

これまでは、関係団体、地域の協力者などが参加し、大きな規模で行ってきたが、新型コロナウイルス感染症流行で中断していた。今年3年ぶりに、規模を縮小しテーマごとに4回に分け「あさひばみんなの防災フェスタ」を開催（まちづくり担当職員が中心となって企画）。防災に関する理解や取るべき最善の方法を深めるために参加者が体験できる場、様々なテーマを設定。

1回目（気象情報と避難・・・気象予報士の協力）

2回目（災害時の食と口腔ケア・・・管理栄養士の協力）

3回目（消防のお仕事体験・・・熊本市東消防署の協力）

4回目（避難生活体験）。

4回目の「避難生活体験」・・・前半は、ホールに避難してきた想定で、パーテーションの設置、避難所に来る時に必要なものなどを具体的に考えた。また、避難生活時に気分転換になるお菓子や飴などの嗜好品を入れておくための「防災ポシェット」作りも行った。

後半は、電気やガスが遮断されたときにも役立つ「ロケットストーブ」で火をつける体験、沸かしたお湯利用した「パッククッキング」の実演などを行い、困難な状況に置いて、どのようなことができるかを考えた。

4回目の参加者は、小学生の親子4組（10人）、大人8人。

成果と課題：

4回目は、他の会に比べ参加者が少なかった。参加者の満足度は高かったので、内容はとてもよかったと思われる。事前の広報で取り組む体験活動や目的などをわかりやすく伝えたとよかった。



学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	○
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	◎
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	

花園公民館

講座名：防災キャンプ

期日：令和4年7月30日（土）午後2時～7月31日（日）正午

場所：花園公民館ホール、調理室、本妙寺、他 対象：小学生とその家族 費用：無料

連携団体または 講師：西区総務企画課防災班、花園食生活改善委員、西区保健子ども課

水野直樹（新聞紙の使い方）、竹田祐子（ゆる体操）

参加者：2家族8人、地域の防災士3人等

概要（「公民館が災害時に避難所になること、避難するときに必要なものなどについて理解を深めるとともに家族で避難生活を乗り切るための練習を行う。」）

講座のようす

居住スペースの組み立て、ナイトウォーク、新聞紙の使い方、パッキング、ゆる体操に取り組んだ。公民館に泊まることでリアルに避難所を体験することができた。



パッキングでは、蒸しケーキとカレーライスを作り、予想以上にいろいろな料理ができることに子どもたちばかりでなく保護者も驚いていた。

ナイトウォークでは、日が暮れると予想以上に暗くなり、行動もしにくくなることを体験できた。

避難するときには懐中電灯、履きやすい靴が必要だ。



夜は逃げるときに必要な道具や新聞紙の使い方について考えて、

その他、翌日の午前中にはエコノミー症候群にならないように脚や背中を伸ばす「ゆる体操」なども実施した。

成果と課題

告知がうまく行き届かず、参加者が少なかった。講座に来られている人や地域の人々に直接呼びかけたりしながら定期的に関催し、公民館の防災の取り組みの定着させていければと願っている。

参加した人たちには好評で、また他課との連携の中で防災意識もお互いに高まってよかったと思う。また防災士の資格を取った人たちに参加してもらう取り組みも今後続けていきたい。

学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	○
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	◎
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	

富合公民館

講座名： 防災について考える！ 簡単に作れる防災食

期日：令和4年 6月 19日（日） 時間：午前10時～12時

場所： 富合公民館 対象： どなたでも 費用： 無料

連携団体または 講師：一般社団法人よか隊ネット熊本 の方

概要

災害は忘れたことにやってくる。熊本は地震・水害・台風と災害が残念ながら続いている。その反面普段から防災対策は万全という方は少ないのではないかと。昨年は、台風の前日にスーパーから養生テープや飲食物が売り切れる場面を見た。そうならないためにも普段から防災意識を高め、災害に対するための備えをし、家族の避難方法等について考えるために、災害ボランティアをされている一般社団法人よか隊ネット熊本と連携して防災講座を実施した。

講座のようす

初めに料理の仕込みを行った。今回は非常食ではなく、ガス、電気が止まっても普段家に買ってある食材を用いて、ポリエチレン袋に入れてお湯で煮込むと完成する料理。そのため仕込みが終わった後に30分ほど煮込む時間が必要となり、その間に講座を行った。熊本市の防災マップから、災害時に想定される参加者の自宅周辺の災害の状況、家族で会う避難場所や避難経路について確認した。また、よか隊ネット熊本から普段用意しておきたい備蓄品や量について具体的に教えていただき、日ごろから災害に備えておくことの大切さについて確認した。

成果と課題

○普段家にある食材を利用した防災食。お湯さえあれば、非常食がなく、電気・ガス等が使えなくても簡単に料理でき、子どもたちも作れて、何より日常の時短料理としても役立つ内容を企画した。

○備蓄品等を買おうと思っても、何を、どのくらい買えばいいのかが難しい。救援が来るまで、最低3日分家族が生き残るのに必要なもの・量等を具体的に学ぶ機会を設けられた。

△防災食を実際作り・防災備品等学べるよう企画を工夫し、追加募集等行ったが参加者は9人だった。参加者の評価は高かった（5段階で4.5）ので、さらに工夫しながら継続していきたい。



学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	○
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	◎
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	

清水公民館

講座名： 防災について考える！ 簡単に作れる防災食

期日：令和4年 6月11日（土）、 時間：午前10時～正午、 場所：料理実習室

対象：どなたでも 費用：無料

連携団体（講師）：一般社団法人よか隊ネット熊本（土黒功司、高井真弓）

概要

熊本地震から6年が経過し、市民の防災意識が低下していくことが懸念される。講座名の通り、地震や風水害等の自然災害に対処するための備えや避難方法について考え、簡単に作れる防災食の作り方について学ぶ講座を、一般社団法人よか隊ネット熊本と連携して実施した。

講座のようす

前半は熊本市の防災マップをスクリーンに投影し、災害時に想定される参加者の自宅周辺の状況や避難場所、避難経路について確認した。被災時のシミュレーションを行い、参加者自身が災害発生時にどのような行動をとるべきか考え、講師の助言を受けていた。さらに、あったらいいとされる備蓄品について確認し、日ごろから災害に備えておくことの大切さについて再確認した。

後半は、沸かしたお湯を使って作る白米ごはんや麺類、おかずなど防災食の調理法について学び、調理士の指導のもと、実際に作って試食をした。

成果と課題

防災士の資格を持つ講師お二人が、役割分担をしながら講座を進められていた。参加者一人一人の家庭状況に照らして被災時のシミュレーションを行い、最新の防災理論について学ぶことができた。講師お二人とは別に、調理士の方お一人も防災食の指導にあたっていた。「来てよかった。今後に生かしたい」などと、参加者の満足度も高かった。

課題としては、10名の定員に対して参加が3名と少なかったことを挙げる。内容が素晴らしかったので、今後はより多くの受講生を集める広報の手段を考えていかなければならない。



学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	◎
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	

西部公民館

講座名： ボッチャ体験講座

期日：令和4年10月 2日（ 日 ） 時間：午前10時～正午

場所：西部公民館 健康増進ルーム 対象：どなたでも 費用：無料

連携団体または 講師：新谷 大輔さん（日本ボッチャ協会 クラス分け委員・審判員）

概要

「ボッチャ」はパラリンピックで話題となった競技であるが、障害のあるなし・性別・年代などにとらわれることなく取り組むことができるスポーツである。本講座では、実際に東京パラリンピックにおいて審判員として活動した新谷さんをお招きし、「ボッチャ」の歴史、ルール等について学ぶとともに、パラリンピックでの体験談をお聞きし、また実際に「ボッチャ」の体験をすることで、誰もが参加できる社会について考えるきっかけとする。

講座のようす

当日の参加者は、親子連れ、高齢者、片足の不自由な方など、この講座を開いてよかったと思える、幅広い層の興味を引くことができた。実際にボッチャを体験すると、「もっとやりたい」「知り合いと体験したい」「（障害があっても）これならできそう」など、たくさんのうれしいご意見をいただくことができた。

成果と課題

当初は大ホールで行う予定で講師にお願いしていたのだが、新型コロナワクチン接種会場としての使用が延長されたため、健康増進ルームを使って行うように計画を変更しなければならなかった。したがって、感染症対策のためにも定員を絞って申し込みを受け付けた。



学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	○
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	◎
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	

城南公民館

講座名：人権文化セミナー

期日：令和4年7月・9月・10月・令和5年1月・2月 第2水曜日 時間：午後7時～8時半

場所：城南公民館・学習室 または 火の君文化センター文化ホール 及び オンライン

対象：どなたでも（教職員・PTA・行政職員が中心） 費用：基本・報償費14,000円

概要

「人にやさしく自分にやさしいまちづくり」のテーマのもと、様々な人権問題に対する正しい理解と認識を深めるとともに、お互いの人権を尊重し合えるまちづくりをめざし、年間5回の講演会を実施。各回の人権課題は部落問題を中心としてあらゆる人権課題を取り上げる。今年度は人権全般・ハンセン病・性的指向・性自認・インターネット・部落問題における人権課題を取り上げた。

講座のようす（受講後の感想等）

・第1回（7/13）講師：玉山隆康さん（コピーライター） 私たちを取り巻く物事を人権の視点で見るところに、改めて「言葉の先にあるもの」を意識することの大切さに気付かされた。

・第2回（9/14）講師：坂本みゆきさん（ハンセン病語り部）講師の熱い語り口で、ハンセン病の歴史と現状を認識できた。（今もなおハンセン病問題は続いていることを知り、自分自身を深く反省し、考えを改められた方もいらした。）

・第3回（10/12）講師：曾方晴希さん 男性・女性はもちろんLGBTなどのカテゴリーをつけることのナンセンスなことに気が付いた。正しい知識を得、決めつけないことが大切だ。

・実施予定 第4回（1/13）講師：松川由美さん（モバイルネットワーク研究所） 第5回（2/8）講師：未定

成果と課題

各回において、様々な人権課題を取り上げているので、たくさんの新しい気づきが受講生にあり、正しいことを「知る」ことができている。参加者に教職員及び小・中学校保護者が多いので、学校や家庭で話題にすることが可能である。特に学校では人権学習に取り入れていることもある。

ただし講演会形式で聞きっぱなしになることが多く、講演後の質疑応答が多くある時には内容が深まったり、新たな学びがあったりするが、特にオンラインでの配信をするにあたり、なかなか双方向での話ができない。



学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	◎
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	

富合公民館

講座名： みんな違ってみんないい！落語人権噺

期日：令和4年 11月 20日（日） 時間：午後1時～2時半

場所：研修室1・2 対象：どなたでも 費用：無料

連携団体または 講師：粗忽家 勘心 氏

概要

人権講座を行うにあたって、講座生を集めることは重要になってくる。今回は落語を組み合わせることで、分かりやすく、笑って人権について学べるようにと企画した。落語は江戸時代からの伝統芸能。当時の世界観や話し方もあり、ご本人の亭号のように現在においては気になる表現もある。そのことも含めて噺家から説明していただき、落語を楽しみながら、口では厳しことを言いながらも、最後まで相手のことを見守っている江戸時代の風潮や人の温かさも語っていただいた。

講座のようす

落語をするには、高座が必要になる。幸い富合公民館はホールがあり、高座セットがあった。噺家の方の話し方や内容はとても分かりやすく、講座生も笑いながら参加することができた。本来は、落ちて落語は終わるが、そこに人権的・文化的・伝統芸能的視点の解説もあり、人権について多面的に学ぶことができた。

成果と課題

○講座生の方が分かりやすく、笑いながら人権について学べるようにと人権落語を企画した。実際、落語に興味があって参加したという方もおられたので参加者層を増やすことができた。

○落語を通して、江戸時代の考え方や伝統芸能等、様々な視点での人権講話を企画・実施できた。

△高座・緋毛氈・座布団等、落語専用の準備物が必要になる。

△人権に落語を取り入れ、広報も通常方法に加えて来館者等に直接声掛け、関係機関に広告配布をお願いしたが、当日参加を入れて10人だった。今後も企画・広報とさらに工夫していきたい。



学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	◎
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	

北部公民館

講座名：熊本市北区公設公民館合同人権啓発講演会「心に響くギターの弾き語り」

期日：令和4年12月18日（日） 時間：午前10時半～正午

場所：植木文化センター文化ホール、特別養護老人ホーム「くわのみ荘」※Zoomで配信

対象：どなたでも

共催：熊本市人権啓発市民協議会、熊本市教育委員会人権教育指導室

概要

全盲のシンガーソングライター大山桂司さんの講演会。

会場に行くことができない特別養護老人ホーム「くわのみ荘」入所者に講演会をZoomで配信した。

講座のようす

温かい雰囲気にもまれた講演会であった。全盲のシンガーソングライターとして活動されている大山さんの前向きな思いや真っ直ぐな気持ちのこもった歌を聞く中で、人権について、参加者も、自分の事と重ねながらしっかり考えることができていた。講演後、参加者からは「心温まる良い講演会だった。」「是非こういう講演会をお願いしたい。」など、多くの好評の声を聞くことができた。

成果と課題

「市民に人権に関する講演会を提供し、人権意識の向上を図る」及び「身近な人権課題を提起し、日常生活の中に人権の視点をあてることの大切さを啓発する。という事業の目的を十分達成することができた。また、講演会会場に行くことができない特別養護老人ホーム「くわのみ荘」入所者に講演会をZoomで配信したことで、入所者が講演会に参加することができた。

ただ、参加人数が、コロナの感染者数が増加傾向にあるということもあり、多くはなかった。開催時期や広報手段も含めて、工夫や改善の余地があったように思う。



学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	○
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	○

五福公民館

講座名：ごふくフットパスふるまちさるき

期日：令和4年7月よりほぼ月に1度実施 時間：午前9時～10時半

場所：五福公民館界隈 対象：どなたでも 費用：無料

連携団体または 講師：熊本城顕彰会 高口氏、五福小学校4年生・5年生

概要

年度当初より、五福小学校の先生方と総合的な学習の時間の表現活動に公民館講座への児童の参画ができないかについて相談を重ねていた。児童の学習には、地域学習で様々な価値ある情報を得て、過去の学年において積み上げてきた実践の跡があった。身近な人への表現活動については、これまでの五福小学校での実践の中でも多く取り組まれていることは容易に想像ができた。しかし、友だち、保護者、地域の方、お世話になった方など、身近な人への発信にとどまり、子どもたちが持ち得ている地域の価値ある情報を本当に知りたがっている、地域外の方々への表現活動は、現在の学習活動では大変難しいチャレンジとなることも容易に想像ができた。

そのため、五福小学校区外からの人々が常々集まっている公民館講座は、児童が表現するための大変有効な場となる。また、公民館に集まってくるのはお年寄りが主な年齢層となる。児童との心の交流ができることは、そういった方々の意欲を増幅させることができる。児童の伝えたいという欲求とそれを受け止めたい利用者との間には、心のウィンウィンの関係が生まれることが分かった。しかも、交流の場を持とうとすると、どうしても平日には難しい部分が出てくる。その点、公民館講座が行われるのは、平日の昼間である。学校も授業時数を確保して、表現活動を行うことができれば、先ほどのウィンウィンに学校も加わり、三方のウィンが完成する。平日の昼間に行う公民館講座に児童の表現活動を授業として参加することを提案することができた。

地域活動を地図上に表す活動が行われていた。調べてきたことを地図上に配置し、その場所を感じたこと分かったことを記していく活動であった。その場所は、点々と存在するが、つなげていくと線となり、五福の宝物を結んだコースとなって地図上に現れ始めた。このコースを使って、公民館活動としてウォーキング講座を実施すれば、児童の活躍の場が確保される。年度末に児童の表現の場を確保できるように、恒常的にウォーキング講座を行い、来るべき学校教育と公民館活動の融合の時を待つこととした。そのために、月に1度の「ごふくフットパスふるまちさるき」を実施することとした。

講座のようす

校区内の寺社仏閣を回ったり、おしゃれなお店を回ったり、歴史に関係する場所を回ったりすることもある。毎回楽しく活動に参加してくださっているが、参加者が固定されてきているのも感じる。

成果と課題

機は熟してきているので、3月に実施する活動に向けて学校と協力して計画したい。

学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	○
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	○
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	◎

河内公民館

講座名：河内を歩く⑤～みかん狩りと港の風景～

期日：令和4年11月5日（土） 時間：午前10時～11時半

場所：河内町船津（温泉地区） 対象：小学生以上

費用：無料（老人福祉センターのお風呂利用者は1人100円）

連携団体または講師：河内老人福祉センター・有明オレンジ園

概要（「どのようなねらいがあるのか」等も含め、講座の概要を記入）

「河内町内を歩きながら、地域の自然、名所、歴史等を知ること、健康増進、地域への関心と愛着を育てること」をねらいに、シリーズで実施している講座の第5弾である。今回は11月なので、オレンジ色に染まるみかん畑の風景とみかん狩りをメインにし、有明オレンジ園の社長さんにみかんの生長について話をいただいた。また、みかん狩り会場近くは「温泉」という地区で、港が近くにあるため、みかん狩り前に周辺を散策し、地名の由来や史跡、歴史等について公民館職員が話をした。また、河内老人福祉センターも近くにあるため、連携して、老人福祉センターについて所長に話をさせていただくとともに講座終了後に温泉に入ることができるようにしていただいた。



講座のようす

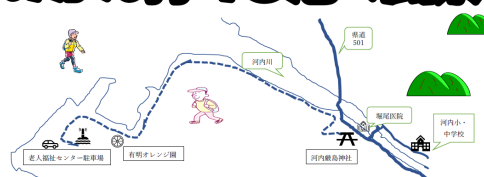
前半の散策では、参加者の皆さんは職員の話に熱心に耳を傾けるだけでなく、知っていることを教え合って、初めて会う方々も良い雰囲気の中で歩くことができていた。みかん狩りも味見をしたり、写真を撮ったりと楽しんでおられる姿があった。後で老人福祉センター所長に尋ねたところ、温泉に入って帰られたのは2名だったそうだ。

成果と課題

昨年まで有明オレンジ園には協力依頼をしていたが、今回、初めて老人福祉センターにも協力をお願いした。温泉に入って帰られた方がおられたので老人福祉センターの広報にもなったかと思う。散策中の話は現在、公民館職員が「河内町史」等で調べたものを話している。喜んでいただいているが、もっと事前調査や学習の時間を取る必要があると思う。また、植物や鳥等について専門の方に話をさせていただいたり、地域の方に講師になってもらったりと、更に工夫をしていきたいと考えている。

河内公民館主催講座

河内を歩く⑤ みかん狩りと港の風景



○ 日 時 11月5日（土） 午前10時～11時半

※ 雨天の場合は中止

○ 集合場所 河内老人福祉センター駐車場

○ 日 程 受付開始 9:50

開会 10:00 閉会 11:30

○ 対 象 小学生以上（中学生以下保護者同伴）20人（抽選）

○ 活動内容 駐車場から近くの灯台を見学し、河内厳島神社まで海岸線を歩き、有明オレンジ園にてみかん狩りを行います。また、60歳以上の方はみかん狩り後、福祉センター温泉（100円）を利用できます。

○ 持参物 動きやすい服装と靴、帽子、タオル、飲み物、マスク

○ 参加費 中学生以上500円 小学生400円

○ 講 師 久家 朋子さん（有明オレンジ園） 河内公民館職員

◆ 申込み 10月12日（水）まで、電話で申し込んでください。

◆ 受講に際し、公民館で配慮が必要な場合は、遠慮なくご相談ください。また、講座中の写真を熊本市の広報活動に利用させていただく場合があります。気になられる方はご相談ください。

◆ 申込み・問合せ先 河内公民館 ☎ 276-0133

学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	◎

南部公民館

講座名：浄行寺 de 腕輪念珠づくり

期日：令和4年11月12日（土） 時間：第1部 午前10時～、第2部 11時～

場所：浄行寺（川尻1丁目） 対象：小中学生、どなたでも 費用：材料費300円

連携団体または 講師：浄行寺住職 盛 智照さん

概要

④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座 として企画

南部公民館管下エリアの一つである川尻小学校区は、江戸時代の城下町として栄えた歴史も知られているが、それ以前から仏教伝来の地としても知られる。

参加者（ターゲットは小中学生）が生活する郷土に点在するお寺を講座の場所として設定し、住職に仏教文化理解の入口として今回は、「腕輪念珠づくり」の講座を依頼（他にも線香づくり、蠟燭づくり等もできるらしかったが、材料費が一番安価で作成も簡単な内容に決定）

地域のお寺にて活動することで、体験・体感型の講座において、簡単に身につけることが可能な腕輪念珠を制作する。

講座のようす

住職から「お寺に初めて来た人は何人くらいいますか？」と尋ねられるとほとんど全員が手をあげた。「何も用事がなくてもいつでもきていい場所がお寺です」との説明。「念珠とは、お経を唱える回数を数えることに使うし、お線香をあげてお祈りするときに使う数珠のことです」といねいな説明を受けた。制作においては何種類もあるさまざまな色の数珠づくりキットの中からお気に入りの材料を選び、就学前のお子さんから小学生、保護者の方、ご高齢の方まで「なかなか難しい」「結び方が難しいね」など、会話をしながら笑顔で完成までこぎつけていた。老若男女入り混じったほのぼのとした講座が展開された。



成果と課題

ねらっていたとおり、初めてお寺に触れる子どもたちにとって、貴重な体験となった。参加者の感想から「お寺はいつ来てもいいって言ってくれました。今度は自分だけで来てみたいと思います」他の参加者からも「これからもこんな講座を企画してほしい」、「思いのほか難しく、腕輪念珠を作るのに手間取りましたが、それだけに、お気に入りの数珠が完成しました。大事に使っていきたいと思います」などの感想が出された。

住職の友人を含め3人体制で引き受けていただいたが、当日に法事など所用が入り、盛住職夫妻による講座となった。現地での駐車場整理や受付等公民館職員3人で運営を行ったため事なきを得た。現地での講座運営において、想定されるトラブル等に対応できる準備をすべきである。

学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	○
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	◎

富合公民館

講座名：中無田閘門で遊ぼう！

期日：令和4年 7月 23日（土） 時間：午前9時～正午

場所：中無田閘門プレイパーク 対象：小学生と保護者の方 費用：無料

連携団体または 講師：加勢川開発研究会の方

概要

現在は橋や道路の陸路、自動車等の発達によって活躍の場がへった水路。しかし、昭和初期は主となる交通網だった。しかし、水路は道路と違い、水位が変わる川と川を繋ぐことは簡単なことではない。パナマ運河で有名な閘門がある。水位の違う川を片方ずつ合わせることで、船や荷物を安全に水平に移動させる閘門。この地元にある当時の素晴らしい技術を知って欲しくて講座を企画した。

講座のようす

現地での体験学習。安全面のために前日、当日の朝と川の様子を見に行った。今回は、カヌー、弓、ペットボトルロケットの3グループに分かれ、初めに閘門の説明を聞いた後、ローテーションでそれぞれ体験してもらった。カヌーは初めての子も多く、安全な閘門内で体験した。地元の雁回山の名前の由来となった源為朝を意識した弓体験、ペットボトルロケットと子どもはもちろん、保護者の方も楽しく参加することができた。

成果と課題

○カヌーのオールは長い一本。そのため、漕ぎ方、曲がり方、止まり方等、慣れるまでは時間がかかったが、後半は楽しく活動できていた。弓矢も経験がない方が多く、矢じりの握り方、構え方等を学べ、ペットボトルロケットはその時その時で距離、方向が変わりながらも楽しく活動できていた。

○親子で協力、時には競いながら活動でき、子どもはもちろん、大人も楽しむことができた。

○閘門の仕組みや当時の交通状況、また弓の名手の源為朝について学べ、富合地域にある中無田閘門や雁回山等についての理解を深める講座を実施できた。

△現地の、また川での活動なので安全面のために、計画・準備・職員数・見守り等が特に重要になる。



学習機会（公民館講座）の充実

①関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	
②震災での体験や教訓をいかした防災意識を持続させるための講座の実施	
③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
④地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	◎

北部公民館

講座名：寂心さんの樟を囲んで

期日：令和4年11月23日（水・祝） 時間：午後5時～7時

場所：寂心緑地公園 寂心さんの樟周辺

対象：寺迫地区（北迫・立福寺・万楽寺・太郎迫）の子どもたち、高齢者及び各種団体

概要

「熊本市光のマスタープラン」に基づき、地域資源等の照明演出を支援する「ライトスケープ・キャラバン（夜間景観実証実験）」として県の天然記念物「寂心さんの樟」のライトアップがなされ、地元の北迫自治会及び北部まちづくりセンター・公民館の主催で「寂心さんの樟を囲んで」の夜間ライトアップイベントが行われた。

講座のようす

日中は寂心緑地公園で遊んだ経験はあるものの、夜間、ライトアップされ、いつもとは違った神秘的な雰囲気の中で、絵本の読み聞かせやギターの演奏、星座観察等を行い、ふるさとの誇りである寂心さんの大樟についての愛着や誇りを更に高めることができる内容であった。

成果と課題

昨年に引き続き、2回目の開催であった。今年は地元の北迫地区を軸に近隣の立福寺・万楽寺・太郎迫にも参加を呼び掛けたことで、寺迫地区の取組へと広がりが見られた。

また、昨年から行ってる絵本の読み聞かせや星座観察に加え、地元北迫地区在住の方のギターの演奏、小学生と地域の方々とのグラウンドゴルフの交流等、イベントの内容も充実してきた。

ただ、イベントを多くの方々が参加して頂けるように、地域にどのように広報していくのか、これから継続してイベントが繋がっていくように、創意工夫していきたい。



令和4年度 人権教育・啓発関連 「講演会」・「講座」等 の実施状況（予定も含む）

館名	期日 (複数回の場合 初回)	種類	講演会名「演題」・講座名	講師 (所属等)	内容	人権課題	共催等	備考 (対象・その他)
中央	7月6日	講座	心の気づき傾聴講座	大村香澄さん (NPO法人傾聴ネットキー ステーション副理事長)	相手に寄り添い、言葉に耳を 傾けプラスに評価しながら話 しを聞くことを学ぶもの。	その他		どなたでも 18名参加 全3回
中央	1月23日	講座	①人権啓発全般 (人権意識の高揚) ②障がい者の人権への理解	パブリックビジネス ジャパン	職場研修において人権啓発全 般及び障がい者の人権につ いて学ぶ。	人権全般及び障がい 者の人権		職員対象
大江	6月7日	講座	はじめての手話講座	田中みさ代 (熊本県手話サークル わかぎ宇城グループ)	初心者向けの手話講座で、自 己紹介を手話でできることを 目指す。	障がい者の人権	熊本聴覚障害者 総合福祉セン ター	
大江	6月27日	講演会	大江子どもフォーラム	三枝三七子さん (絵本作家)	・三枝さんと水俣の出会い ・絵本「みなまたの木」の読 み聞かせ ・水俣病の差別の起こりにつ いて	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	大江小学校5年生と保護者
大江	6月27日	講演会	託麻原子どもフォーラム	三枝三七子さん (絵本作家)	水俣から学んだことを私たち の暮らしにつなげよう。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	託麻原小5年生と保護者
大江	6月28日	講演会	帯山西小学校 ハートフル講演会	三枝三七子さん (絵本作家)	「水俣を知ろう」水俣の学習 を深めていくことで、5年部の 総合的な学習の取り組みとし て学ぶ。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	帯山西小学校5年生
大江	6月30日	講演会	出水小学校 ハートフル講演会	三枝三七子さん (絵本作家)	絵本「みなまたの木」の読み 聞かせを通して、水俣病につ いて学ぶ。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	出水小学校5年生
大江	11月26日	講演会	みんなで考える「SDGs」 オンライン講座	神田みゆきさん	「SDGs」について全く知 らない方でも、取り組むきつ かけとなる講座。	人権全般		
五福	6月30日	講演会	本荘小学校 ハートフル講演会	三枝三七子さん (絵本作家)	「いまを生きる私たちが 水 俣病を学ぶということ」	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	本荘小学校4・5年生児童、教 職員

館名	期日 (複数回の場合 初回)	種類	講演会名「演題」・講座名	講師 (所属等)	内容	人権課題	共催等	備考 (対象・その他)
五福	10月13日	講座	初級手話講座	岡本恭典さん (熊本市ろう者 福祉協会)	かんたんな日常会話程度の手 話を身につける手話の入門講 座。	障がい者の人権		どなたでも。 デフバドミントンのランキン グサーキットが熊本市で行わ れた際に、熊本市から参加し たスタッフに相談。講師の紹 介から講座の実施までご協力 いただいた。11/18現在、5回 終了。全10回。
託麻	2月4日	講演会	東区3公民館合同講演会 「女子教育」と「女性の地位向 上」に命をかけた熊本の女性 ～竹崎順子・矢嶋楯子の生涯～	齊藤輝代さん (著述家)	明治期、女性の人権向上のた めに熊本の女性がリードして いったことを知り、現在と比 較し、これからの行動を考え る。	女性の人権	東部公民館 秋津公民館 託麻公民館	東部公民館（会場） 秋津・託麻公民館（サテライ ト会場） オンライン（受講者個人の端 末）
秋津	6月30日	講演会	ハートフル講演会 「みなまたから学ぶ思いやりの大 切さ」	三枝三七子さん (絵本作家)	「水俣病発生当時の人々の暮 らしや置かれた状況などの話 を聞き、正しい知識、相手の 立場を考える想像する力の大 切さを学ぶ。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	秋津小学校5年生
秋津	7月14日	講座	おでかけ公民館（オンライン） 同じスタートラインに立つために 視覚障害について考える	石坂 啓さん (熊本県点字図書館)	オンラインで講師と教室を結 んで行う。講師の体験談や視 覚障がいについて、視覚障が い者への支援についてなど。	障がい者の人権		秋津小学校4年生
秋津	7月20日	講座	おでかけ公民館 同じスタートラインに立つために 視覚障害について考える	大山桂司さん (シンガーソング ライター)	講師の体験を歌にしたギター の弾き語りや、iPadなどの機 器を活用した生活の様子など を聞き、理解を深め、自分に できることを考える。	障がい者の人権		秋津小学校4年生
秋津	10月25日	講座	拉致問題について ドキュメンタリーアニメ 「めぐみ」鑑賞会	秋津公民館 社会教育主事	ドキュメンタリーアニメ「め ぐみ」や蓮池薫さんのインタ ビュー映像を見て、拉致問題 について考える。	拉致問題その他北朝鮮 当局による人権侵害		
秋津	12月11日	講演会	あなたのまわりに人権を考え るきっかけが・・・	飯開輝久雄さん (合志市職員)	ギターの弾き語りによるコン サート形式。人権に関するこ とを題材にした歌や合間の体 験談などから、身の回りの人 権について考える	人権全般		
秋津	2月4日	講演会	東区3公民館合同講演会 「女子教育」と「女性の地位向 上」に命をかけた熊本の女性 ～竹崎順子・矢嶋楯子の生涯～	齊藤輝代さん (著述家)	明治期、女性の人権向上のた めに熊本の女性がリードして いったことを知り、現在と比 較し、これからの行動を考え る。	女性の人権	東部公民館 秋津公民館 託麻公民館	東部公民館（会場） 秋津・託麻公民館（サテライ ト会場） オンライン（受講者個人の端 末）

館名	期日 (複数回の場合 初回)	種類	講演会名「演題」・講座名	講師 (所属等)	内容	人権課題	共催等	備考 (対象・その他)
東部	6月29日	講演会	ハートフル講演会 「みなまたから学ぶ 思いやりの 大切さ」	三枝三七子さん (絵本作家)	水俣病発生当時の人々の暮らしや置かれた状況などの話を聞き、正しい知識、相手の立場を考え、想像する力の大切さを学ぶ。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	健軍東小学校5年生
東部	12月3日	講演会	教養講演会「犯罪被害者の思い」	水口正洋さん (NPO法人身近な犯罪被害者を支援する会理事長)	犯罪被害者の思いや、犯罪に遭うとどのようなことが起こるのかなどについて知り、犯罪の少ないまちづくりの実現について考える。	犯罪被害者等の人権	なし	どなたでも
東部	2月4日	講演会	東区3公民館合同講演会 「女子教育」と「女性の地位向上」に命をかけた熊本の女性 ～竹崎順子・矢嶋楯子の生涯～	齊藤輝代さん (著述家)	明治期、女性の人権向上のために熊本の女性がリードしていったことを知り、現在と比較し、これからの行動を考える。	女性の人権	東部公民館 秋津公民館 託麻公民館	東部公民館(会場) 秋津・託麻公民館(サテライト会場) オンライン(受講者個人の端末)
西部	10月2日	講座	ボッチャ体験	新谷大輔さん (医療福祉教育・管理アドバイザー)	ボッチャの概要説明から、講師のパラリンピックでの審判員としての体験談を聞き、ボッチャの体験を行い、障害のあるなしに関わらずに取り組むことについて学ぶ。	障がい者の人権		どなたでも
西部	10月21日	講演会	メディアとの関わり方を考え、元気で楽しい学校生活を送ろう！	戸田俊文さん (真和高等学校情報担当教諭)	メディアとの関わり方について、生徒代表、保護者代表、専門家をパネリストにディスカッションを行い、全校生徒でスマホルールを確認し合う。	インターネットによる人権侵害		三和中学校全校生徒・職員・PTA役員
西部	12月6日	講演会	ハートフル講演会 「みなまたから学ぶ 思いやりの 大切さ」	三枝三七子さん (絵本作家)	「みなまたの木」や「よかたい先生」の作者である講師から、水俣病発生当時の人々の暮らしや置かれた状況などの話を聞き、思いやりの大切さを学ぶ。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	池上小学校5年生50人、職員
西部	1月28日	講演会	犯罪被害者の現状と地域での支え合い	水口正洋さん (NPO法人身近な犯罪被害者を支援する会理事長)	犯罪被害者の置かれる状況や、地域で支え合うことの大切さを学ぶ。	犯罪被害者等の人権	NPO法人身近な犯罪被害者を支援する会	どなたでも
花園	11月13日	講座	雑草織の魅力～ 自然と向き合う 豊かな暮らし方の話	今和泉俊子さん (雑草織作家)	身の回りに自然に生えている草を利用して雑草織りをされておられる今和泉さん。創作された作品の鑑賞とともに、今の時代に必要な暮らし方、生き方について。	女性の人権		どなたでも

館名	期日 (複数回の場合 初回)	種類	講演会名「演題」・講座名	講師 (所属等)	内容	人権課題	共催等	備考 (対象・その他)
花園	12月1日	講演会	花園小学校ハートフル講演会	三枝三七子さん (絵本作家)	森と水と私たち(水俣病を通して)	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	花園小学校5年生児童、教職員、地域住民
河内	7月3日	講演会	イライラや怒りの感情と 上手に付き合う アンガーマネジメント	池田福美さん (アンガーマネジメント コンサルタント)	「怒りの感情をコントロールする」ことで、周囲や自分も大切にしながらコミュニケーションができることを学ぶ。	人権全般		地域の60歳以上の方を対象にした「生きがい学級」を兼ねて開催
河内	9月4日	講演会	認知症サポーター養成講座	今村洋美さん (ささえりあ金峰生活 支援コーディネータ)	認知症を理解し、サポートするための基礎を学ぶ。	その他		地域の60歳以上の方を対象にした「生きがい学級」を兼ねて開催
河内	2月3日	講演会	芳野中学校 立志式記念講演会	寺本真将さん (MASA FREE SCHOOL 代表)	世界の働く子どもたちの現状を知り、子どもの人権について考える機会とする。	子どもの人権	人権教育指導室 芳野中学校	芳野中学校2年生
河内	2月6日	講演会	河内中学校 立志式記念講演会	寺本真将さん (MASA FREE SCHOOL 代表)	世界の働く子どもたちの現状を知り、子どもの人権について考える機会とする。	子どもの人権	人権教育指導室 河内中学校	河内中学校2年生
南部	5月26日	講座	手話入門	田中みさ代 (熊本県手話サークル わかぎ宇城グループ)	初心者向け手話講座	障がい者の人権	熊本聴覚障害者 総合福祉セン ター	第2・4木曜日 全8回
南部	6月29日	講演会	ハートフル講演会 「いまを生きる私たちが 水俣病を学ぶということ」	三枝三七子さん (絵本作家)	絵本「みなまたの木」の作者が水俣病の実際について取材を通して学んだことを子どもたちに入権講話として語る。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	日吉小学校5年生児童
南部	9月21日	講座	傾聴ボランティア養成講座	平江愛子さん (NPO法人傾聴ネット キーステーション)	はじめての傾聴講座 傾聴の手法を学ぶ。	人権全般		全7回
南部	10月25日	講座	手話入門サークル 主催講座として支援	田中みさ代さん (熊本県手話サークル わかぎ宇城グループ)	主催講座で学んだ方々が継続的に学びたいという申し出の講座として支援。	障がい者の人権		第2・4木曜日 全11回
幸田	5月26日	講座	手話入門	田中みさ代さん (熊本県手話サークル わかぎ宇城グループ)	初心者向け手話講座	障がい者の人権	熊本聴覚障害者 総合福祉セン ター	全8回

館名	期日 (複数回の場合 初回)	種類	講演会名「演題」・講座名	講師 (所属等)	内容	人権課題	共催等	備考 (対象・その他)
幸田	12月16日	講演会	ストリートチルドレン に学ぶ生き方	寺本真将さん (MASA FREE SCHOOL 代表)	世界の働く子どもたちの現状 を知り、子どもの人権につい て考える機会とする。	子どもの人権	人権教育指導室	田迎南小学校5年生児童
飽田	11月4日	講演会	飽田東小学校ハートフル講演会 「ネット社会での 豊かな人権感覚」	戸田俊文さん (真和高等学校・ 情報担当教諭)	豊かな人権感覚をもってネット社 会に参画することを学び、見え ない相手に対する心づかいや情報拡 散等々を注意する考え方が持てるよ うになる。	インターネットによ る人権侵害	教育委員会 人権指導室	飽田東小学校5・6年生 183人
飽田	1月19日	講座	LGBTQについて	飽田公民館 社会教育主事	多様性について、現代の社会的認 識の方向を学ぶ	性同一性障がい・性 的指向をめぐる人権		飽田公民館講座生 30人
天明	4月22日	講座	感染症対策と 新型コロナワクチン開発	KMバイオロジクス	感染症対策のワクチン接種に関し て、ワクチンを打ちたくても打て ない方に対しての差別や偏見はあ ってはならないなど。	HIV感染症等をめぐ る人権		どなたでも
富合	11月20日	講座	みんな違ってみんないい！ 落語人権噺	粗忽家勘心さん (アマチュア落語家)	落語を通して、江戸時代の時代背 景を知ると共に当時の考え方を知 り、人権意識を高める。	障がい者の人権		どなたでも
富合	2月4日	講演会	立志式講話 (ハートフル講演会)	寺本真将さん (MASA FREE SCHOOL 代表)	立志式において世界中の子どもた ちを助けている方の話を聞くこと で、今後の生徒自身の生き方の目 標や励み、実践に繋がるようにす る。	子どもの人権	人権教育指導室	富合中学校2年生
富合	2月17日	講座	輝かしい老後を！ 初めてのエンディングノート	寺本知由さん (明治安田生命)	実際にエンディングノートを記入 しながら、これから先の人生も もっと豊かになれるように考える きっかけづくりとする。	高齢者の人権	明治安田生命	どなたでも
城南	6月22日	講座	傾聴ボランティア養成講座	傾聴ネット キーステーション	傾聴の入門講座 復興住宅等での現地研修も計画	その他		・どなたでも ・8回シリーズ ・座学だけでなく、実際に傾 聴の現場で実習を行う予定 だったが、諸事情により別な 研修会に参加。
城南	6月29日	講演会	転入者人権教育研修会	栗山重信さん (人権の風)	部落問題について 学校での人権教育について	同和問題	城南町校長園長 会	・今年度、城南地域小学校及 び中学校、幼稚園に転入した 教職員が対象の講演会 ・これまでの城南町の実態を 知り、今後の人権教育に生か す。

館名	期日 (複数回の場合 初回)	種類	講演会名「演題」・講座名	講師 (所属等)	内容	人権課題	共催等	備考 (対象・その他)
城南	7月13日	講演会	第1回人権文化セミナー 「ことばとところ」	玉山貴康さん (電通・コピーライター)	コピーライターとして、マイノリティとして、人権課題をどのようにとらえるかについて。	人権全般	人権教育指導室 人権啓発市民協議会	・どなたでも ・オンライン47人、会場32人 ・人権尊重の基本となる部分の話を聞き、本年度のセミナーの根幹とする。
城南	8月7日	講座	学ぼう世界の国々	JICAデスク熊本	日本と同じところや違いを発見し、国際理解につなげる。SDG'sも取り入れ、リサイクルを意識したものづくりをする。	外国人の人権	JICAデスク熊本	・親子対象 ・SDG'sやフェアトレードについての情報や話を取り入れることで人権も取り扱った。
城南	9月9日	講座	楽しく学べる手話講座	田中みさ代 (熊本県手話サークルわかぎ宇城グループ)	手話入門講座 自分の自己紹介を手話でできることが目標 手話に触れるとともにボランティアにもつながるきっかけとする。	障がい者の人権		・どなたでも ・8回シリーズ ・当事者が伝えたいことを受け取りたいという思いが大事だということを学んだ
城南	9月14日	講演会	第2回人権文化セミナー 「ハンセン病を知ってますか？」	坂本みゆきさん (ハンセン病語り部)	恵楓園ボランティアガイドとして、ハンセン病の現状と回復者とその家族の人権について、またコロナ感染者の人権も重ねて考える。	ハンセン病回復者等の人権	人権教育指導室	・どなたでも ・オンライン37人、会場26人 ・ハンセン病に対する偏見・差別をなくすことをしっかりと伝える。
城南	10月12日	講演会	第3回人権文化セミナー 「性の多様性について」	曽方晴希さん	性の多様性に関し、当事者の現状を知ることにより、正しい知識を持つことの重要性について学び、自分たちにできることを考える。	性同一性障がい・性的指向をめぐる人権	人権教育指導室	・どなたでも ・オンライン38人、会場27人 ・カテゴライズすることのナンセンスさも学んだ。
城南	12月12日	講座	もっと学ぼう世界の国々	JICAデスク熊本 JICA長期研修員 熊本市国際交流員	外国人の講師から自国の紹介をして、様々な国の様子を知るゲームなどで交流する。	外国人の人権	JICAデスク熊本 国際課	親子対象
城南	1月13日	講演会	第4回人権文化セミナー	松川由美さん (モバイルネットワーク研究所)	(中止)	インターネットによる人権侵害		(中止)
城南	2月8日	講演会	第5回人権文化セミナー	細貝両作さん (解放同盟 南関支部長)	たくさんの出会いにより学んだことと部落問題を重ねて考える。	同和問題	人権教育指導室	・どなたでも ・オンラインでも実施
龍田	5月20日	講座	やさしい手話入門	小野康二さん (熊本県手話サークルわかぎ)	初心者を対象に、手話についてその成り立ち・歴史・会話方法について学び、実際に手話を使って会話練習をする。	障がい者の人権	主催講座	どなたでも

館名	期日 (複数回の場合 初回)	種類	講演会名「演題」・講座名	講師 (所属等)	内容	人権課題	共催等	備考 (対象・その他)
龍田	7月1日	講演会	弓削小学校 おでかけ公民館講座	三枝三七子さん (絵本作家)	なぜ水俣病の学習をするのかを考えるとともに、水俣病を正しく理解し、これからの未来のあるべき姿を考えていく。	水俣病をめぐる人権	お出かけ公民館講座	弓削小学校5年生、教職員
龍田	7月8日	講演会	武蔵小学校 おでかけ公民館講座	寺本真将さん (MASA FREE SCHOOL 代表)	ウクライナで生活経験のある講師の話をもとに、リモートでウクライナ国内と学校をつなぎ、現状について話を聞く。話の後、質疑応答を行った。	人権全般	お出かけ公民館講座	武蔵小学校2～4年生児童
龍田	11月18日	講演会	武蔵中学校 おでかけ公民館講座 (ハートフル講演会)	杉本 肇さん (水俣病語り部)	水俣病について、その原因を正しく理解し、差別の実態に学び、人権を大切にする社会にしていくなめにはどのような行動すればよいか考えた。	水俣病をめぐる人権	お出かけ公民館講座	武蔵中学校全校生徒、教職員
龍田	12月4日	講演会	教養講演会 人権歌声喫茶	村上陽一さん 西川正則さん (さしより生バンド)	アコーディオンやハーモニカの音色のなつかしいメロディーにのせて、人権を大切にすることについて考える歌を歌う。	障がい者の人権	教養講演会	どなたでも
龍田	12月18日	講演会	熊本市北区公設公民館 合同人権教育講演会	大山桂司さん (シンガーソング ライター)	大山桂司さんの心に響くギターの弾き語りを聴く。大山さんは、盲目のシンガーソングライターとして、前向きで、まっすぐな気持ちを込めた歌を届けられる。大山さんの歌を聴き、人権が尊重される社会を創っていくための学びをする。	障がい者の人権	北区公民館合同 主催講座	どなたでも
龍田	1月24日	講座	心に寄り添う傾聴	中村典子さん (傾聴ボランティア くもと)	「傾聴」について基礎的な技法について学び、実際の家庭生活の具体的な場面でどのように活かしていくか考える。	人権全般	主催講座	どなたでも
清水	10月23日	講座	初めての終活	吉富文子さん (終活アドバイザー・ AFP)	メッセージノートを使って、成功したことや好きなもの、これからやりたいこと、人間関係等を確認する。これからの人生を豊かなものにするために、何かあった時のこと、家族に伝えたいことを書き出す。	高齢者の人権		どなたでも
清水	11月18日	講座	ボッチャ (床の上のカーリング) 体験講座	吉田祐一さん (Art and Sports for Everyone 代表理事)	ボッチャの歴史や競技方法の説明を聞き、ボッチャ体験を行う。競技を楽しみ、最後に感想交流を行う。	障がい者の人権		城北小学校3年生

館名	期日 (複数回の場合 初回)	種類	講演会名「演題」・講座名	講師 (所属等)	内容	人権課題	共催等	備考 (対象・その他)
清水	12月18日	講演会	熊本市北区公設公民館 合同人権教育講演会	大山桂司さん (シンガーソング ライター)	大山桂司さんの心に響くギターの 弾き語りを聴く。大山さんは、盲 目のシンガーソングライターとし て、前向きで、まっすぐな気持ち を込めた歌を届けられる。大山さ んの歌を聴き、人権が尊重される 社会を創っていくための学びをす る。	障がい者の人権	北区公民館合同 主催講座	どなたでも
清水	2月22日	講演会	清水中学校立志式講演会	高橋尚子さん (くまもとバリアフリー プロジェクト)	立志式の機会に障がい者の人権に 関する話を聞く。	障がい者の人権	熊本市教育委員 会 学校教育部 人権教育指導室	清水中学校2年生
北部	4月12日	講座	心配ごと相談	吉永京子さん 他 (心配ごと相談員)	自分のことや家族のことなど、ど んな内容の心配ごとにも相談に応 じ、心配ごとを一人で抱え込ませ ないようにする。	人権全般		どなたでも
北部	7月26日	講座	ハンセン病について	原田寿真さん (菊池恵楓園 歴史資料館学芸員)	ハンセン病についての人権講演を 通して、共生（インクルーシブ） 社会の実現に向けた地域社会の素 地をつくる。	ハンセン病回復者等 の人権	旅のよろこび 株式会社	どなたでも
北部	8月23日	講座	熊本県民として知って おきたい「水俣病」のこと	永野三智さん (一般財団法人 水俣病センター相思社 ／水俣病歴史考証館職員)	水俣病についての人権講演を通し て、共生（インクルーシブ）社会 の実現に向けた地域社会の素地を つくる。	水俣病をめぐる人権	旅のよろこび 株式会社	どなたでも
北部	11月27日	講座	犯罪被害の起きない まちづくり	水口正洋さん (NPO法人身近な犯罪被害者 を支援する会理事長)	犯罪被害の起きないまちづくりに ついて学ぶ。	犯罪被害者等の人権		どなたでも
北部	12月18日	講演会	熊本市北区公設公民館 合同人権教育講演会	大山桂司さん (シンガーソング ライター)	全盲のシンガーソングライターと して活動されている大山さんの前 向きな思いや真っ直ぐな気持ちの こもった歌を聞く中で、人権につ いて、参加者も、自分のことと重 ねながらしっかり考えることがで きた。	障がい者の人権	熊本市人権啓発 市民協議会 熊本市 教育委員会 人権教育指導室	どなたでも
植木	4月12日	講座	いきいき人権	中田賞子さん (植木公民館 自主講座講師)	自分の暮らしや社会の中の身近な 問題を出し合って、丁寧に学び (考えあい・話し合い)、課題の 発見と解決への道筋を明らかにす ることを通して、明るいくらしづ くり役立てる。	人権全般	自主講座	どなたでも

館名	期日 (複数回の場合 初回)	種類	講演会名「演題」・講座名	講師 (所属等)	内容	人権課題	共催等	備考 (対象・その他)
植木	6月22日	講演会	田底小学校 おでかけ公民館講座 人権教育講演会 (人権フォーラム)	尾原遼平さん (タッパー)	障がいの有無など、その持っている属性によって排除されることなく、誰もが構成員の一員として分け隔てられることなく、地域や学校であたりまえに存在し、生活することができる社会を目指す意識の高揚を図るため、今回の講演を聴き学んでいく。	障がい者の人権	お出かけ公民館講座	田底小学校全児童および教職員
植木	6月28日	講演会	植木小学校 おでかけ公民館講座 (ハートフル講演会)	三枝三七子さん (絵本作家)	なぜ水俣病の学習をするのかを考えるとともに、水俣病を正しく理解し、これからの未来のあるべき姿を考えていく。	水俣病をめぐる人権	お出かけ公民館講座	植木小学校小学5年生、保護者、教職員
植木	8月26日	講演会	植木北中学校区 3小中学校合同 おでかけ公民館講座 「ハートフル講演会」	日高庸晴さん (宝塚大学教授)	小中一貫で多様性を認め合う児童生徒の育成 ～LGBTsの児童生徒の存在を認識した学校での取り組み～	性同一性障がい・性的指向をめぐる人権	お出かけ公民館講座	植木北中学校、田底小学校、吉松小学校の保護者および教職員
植木	12月2日	展示	植木公民館人権週間の取組	なし	植木管内の各小中学校で取り組んだ人権啓発作品及び熊本市人権啓発作品展 最優秀賞、優秀賞を植木文化センター(植木公民館)内で展示する。また、見ていただいた来館者の方に感想を書いていただき、借用した各小中学校へフィードバックする。	人権全般		どなたでも 10日間
植木	12月18日	講演会	熊本市北区公設公民館 合同人権教育講演会	大山桂司さん (シンガーソングライター)	本年度の人権教育講演会は、大山桂司さんの心に響くギターの弾き語りを聴く。大山さんは、盲目のシンガーソングライターとして、前向きで、まっすぐな気持ちを込めた歌を届けられる。大山さんの歌を聴き、人権が尊重される社会を創っていくための学びをする。	障がい者の人権	主催 北区4公民館合同 共催 熊本市人権啓発市民協議会、熊本市教育委員会人権教育指導室	どなたでも

講座 30

講演会 43

じんけんコラム ホッと♡スペース

ひとにやさしい、じぶんによさしい
あたたかい話題をとどけます！

多様な人が支え合う共生社会をつくるために「心のバリアフリー」を

「障害を理由とする差別の解消に関する法律(障害者差別解消法)」が 2016 年 4 月 1 日に施行され、6 年が経ちました。私たちが暮らしている地域社会は、さまざまな心身の特性や考え方をもつ「多様な人」で構成されています。しかしこれまでに、こうした多様な人を楽しみせず、障がいのある人に対する差別や、障がいのある人はかわいそうで一方的に助けられるべき存在といった誤った理解があることは否めません。

2017 年 2 月のユニバーサルデザイン 2020 関係閣僚会議において、「障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に、支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会」を目指すとしています。

この共生社会をつくるためには一人一人が相互に理解を深めようとコミュニケーションを取り、支え合う「心のバリアフリー」が必要です。自分とは異なる条件をもつ多様な他者と交流をはかり、すべての人が抱える困難や痛みを想像し共感する力をつけなければなりません。

【法務省チャンピオン】

朗読動画「みんなのヒーロー」【中学生人権作文コンテスト内閣総理大臣賞】(約 7 分)
「心のバリアフリー」ってこんなことだなと考えさせられる作品です。



じんけんコラム ホッと♡スペース 2022.4 「障がい者の人権」

じんけんコラム ホッと♡スペース

ひとにやさしい、じぶんによさしい
あたたかい話題をとどけます！

「児童の権利に関する条約」

右のポスターをご覧になったことはありますか？

熊本市立の学校や公民館などに掲示してある「児童の権利に関する条約」を啓発するポスターです。

「児童の権利に関する条約」は、1989 年に国連で採択された条約で、世界中のすべての子どもたちがおとなと同じように“ひとりの人間として権利が認められる”という国際条約で、多くの条約の中でもっとも世界中から支持されている条約です。日本も批准し、平成 6 年 5 月 22 日から効力を生ずることとなりました。

ピクトグラムが描かれたカラフルなアイコンの 1 つ 1 つが「児童の権利に関する条約」の条文を表しています。今度、公民館でこのポスターを見る機会がありましたら、「児童の権利に関する条約」とはどんな内容なのか、じっくりご覧になってはいかがでしょうか。



じんけんコラム ホッと♡スペース 2022.5 「児童の権利に関する条約」

じんけんコラム ホッと♡スペース

ひとにやさしい、じぶんによさしい
あたたかい話題をとどけます！

「多様性を認め合い、誰もが自分らしく！」

6月は「プライド月間」と呼ばれ、世界各地で性的マイノリティ（少数者）について啓発する活動・イベントが実施されます。今までは当事者団体による活動が多かったのですが、近年では企業や自治体も活動・キャンペーンをおこなっており、身近な話題として理解も深まってきています。

性的指向・性自認には様々な要素があり、ひとりひとりが違う性のあり方をもっています。それらを受け入れ、違いを尊重することがとても大事です。これまでの固定観念で当事者を色眼鏡で見たり、差別したりすることは許されないことです。

性的マイノリティは「13人に1人」（民間事業者調べ）。「出会ったことがない」と思われるかもしれませんが、それは当事者が差別を恐れ、「言えない」だけだったのかもしれません。

理解が深まり、それぞれの多様性を認め合える社会になれば、誰もがより自分らしく生きることができるようになるのではないのでしょうか。



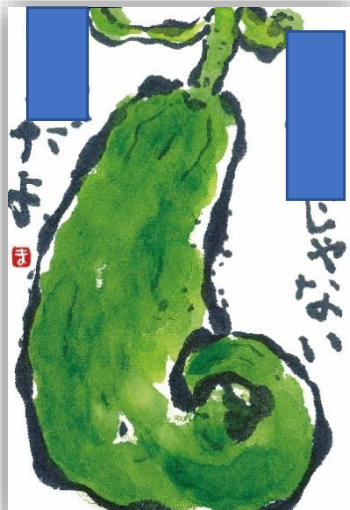
「多様な性について考えよう」法務省HPより（動画：約4分）

じんけんコラム ホッと♡スペース 2022.6 「性的マイノリティの方の人権」

じんけんコラム ホッと♡スペース

ひとにやさしい、じぶんによさしい
あたたかい話題をとどけます！

ラブミン人権啓発作品



早く知りたい方は
こちらから

左の絵手紙は、令和3年度ラブミン人権啓発作品募集において最優秀賞に輝いた作品です。

夏にさんさんと降りそそぐ太陽の光を浴びて、丸々と成長したきゅうり。あなたならどんな言葉を絵手紙に書き入れるでしょうか？

この製作者は、人権啓発作品として「～～ない ～～だよ」と書き入れています。どんな言葉が入るでしょうか？

答えが気になる方は、公民館にある今年度の作品募集のポスターやチラシに答えが書いてあります。ぜひ、公民館で確認してください。ちなみに、今年度の作品募集も、すでにスタートしています。

せっかくなのであと1問。小学生が書いた短いメッセージです。

「○○○○○ みんなにみせた

おめでとうっていつてくれた うれしかった」

○に入る言葉は何でしょう。みんなの笑顔が想像できる作品ですね。

じんけんコラム ホッと♡スペース 2022.7 「人権啓発作品」

事情があってマスクをつけられない方への理解を！

新型コロナウイルス感染症の拡大予防として『マスク着用』の習慣が浸透し、日常の風景になってしまいました。

逆にマスクをつけていない方へ厳しい目が向けられる状況が見受けられます。しかし、様々な障がいや病気などの事情でマスクをつけたくてもつけられない方もいらっしゃいます。周囲からはわがままでつけていないと誤解されたり、厳しい視線を向けられたり、心無い批判をうけるなどトラブルもおこっています。

マスクをつけていない人を見かけたら「何か事情があるのかもしれない」と相手の立場を思いやってみてください。障がいや病気などの事情でマスクをつけられない人がいることを知り、その特性や事情を理解し、お互いに思いやりの心をもって、この時代を乗り切っていきましょう。

公民館をご利用の方でこのような事情によりマスクをつけられない方は事務所までお気軽にお声かけください。



じんけんコラム ホツと♡スペース 2022.8 「新型コロナウイルス感染症にかかる人権」

思い込みへ 愛を注ぎ 「人権」を尊重する

『「なんで私だけがお茶なんだ。年寄りだってジュースを飲むんだ！」数年前、あるタレントさんが怒ったことがある。』と、その時の様子を見た小説家がラジオで語っておられました。他の出演者は缶コーヒーやジュースなのに自分だけが違っていただけと憤怒したということです。スタッフの気遣いだったのかもしれませんが、高齢者だからといって勝手に決めつけないでくれ！と嘆いていたそうです。

年寄りでもクリームソーダが大好きな方もいれば、若くても渋いお茶好みもあります。このように〇〇はこうだといった決めつけや思い込みが偏見を生み、罪の意識もなく誰かの人権を侵しているのかもしれません。

最近、テレビを見ていて、そのことに気づかせてくれるCMがありました。コンビニのレジ前の列の先頭で高齢の女性が支払いについているところに強面の若者が慌てなくてよいとラップ口調で歌い始めるACジャパンのCMです。

皆さんもぜひ見ていただき、そのことについて考えていただければ幸いです。

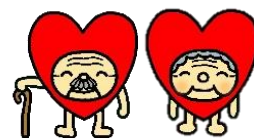


じんけんコラム ホツと♡スペース 2022.9 「高齢者の人権」

じんけんコラム ホツと♡スペース

ひとにやさしい、じぶんによさしい
あたたかい話題をとどけます！

10月1日「国際高齢者デー」



日本では9月第3月曜日に高齢者を敬い、長寿を祝う「敬老の日」があります。もとは戦後の混乱の中で、「精神的に疲れ切った子どもを戦地に送った親」に少しでも報いたいという兵庫県のある村の村長さんが開いた「敬老会」がはじまりだったそうです。また、世界の国々でも同様の日が設定されており、食事を催したり、メッセージカードを贈ったりしているそうです。

このように世界中で、高齢者への敬意や感謝をあらわす風習がありますが、その反面、高齢者への虐待や高齢者の有する財産権の侵害などの問題も深刻化しています。

毎年10月1日は1991年から国際連合加盟国が定める「国際高齢者デー」です。高齢者の権利や問題について理解を深めるための啓発活動を行うことを目的としています。

これまで社会に尽くしてきた人生の大先輩を敬い、感謝の気持ちをもつことで、高齢者の人権尊重や高齢者虐待防止・認知症への理解などにも意識が向き、誰もが人としての尊厳をもって長生きできる、そんな世の中にしていきたいと思います。

じんけんコラム ホツと♡スペース 2022.10 「国際高齢者デー」

じんけんコラム ホツと♡スペース

ひとにやさしい、じぶんによさしい
あたたかい話題をとどけます！

子どもの明るい未来のために 体罰等のない社会へ

病院の待合室でよく見かける風景。待ち時間の長さに耐えきれず騒ぎだす子と周りに迷惑をかけるように気をつかう保護者。なだめすかして、少しでも騒ぎ出さないようにとあの手この手で保護者は子どもの機嫌が悪くならないように頑張る。しかし、我慢の限界を超え騒ぎ出してしまい、時には保護者の手が出ることも・・・。

2020年から児童福祉法等が改正され、**体罰が許されないものであることが法制化**されました。

しかし、しつけのために子どもに体罰をすることに対して約6割が肯定しているという調査結果もあります。体罰では、恐怖心で行動をコントロールするだけで、子どもの成長の助けにならないばかりか心身の発達に悪影響を及ぼします。体罰等にたよらない子育てについて考えていくとともに、地域全体で子育てを温かく見守り、応援していく社会が必要です。



11月は「児童虐待防止月間」。児童虐待は早期に解決すべき問題であり、子どもの「命」と「権利」、そして「未来」を社会全体で守らなければなりません。

じんけんコラム ホツと♡スペース 2022.11 「児童虐待防止月間」

じんけんコラム ホツと♡スペース

ひとにやさしい、じぶんにやさしい
あたたかい話題をとどけます！



12月4日～10日は、人権週間

国際連合は、昭和23年12月10日に世界人権宣言を採択し、昭和25年には、世界人権宣言が採択された日である12月10日を「人権デー」と決めました。

昭和24年以降、毎年「人権週間」を中心に各地でさまざまな啓発活動が行われており、本市では今年も人権啓発作品の表彰や作品展示などのイベントを実施します。

入賞作品の展示（最優秀賞・優秀賞）

展示場所：市役所1階 ロビー

展示期間：12月2日（金）～9日（金）※土・日曜日を除く

公民館の展示（担当校の児童生徒の最優秀賞・優秀賞）

展示場所：

展示期間：12月2日（木）～9日（金）※月曜日を除く



じんけんコラム ホツと♡スペース 2022.12 「世界人権宣言・人権週間」

じんけんコラム ホツと♡スペース

ひとにやさしい、じぶんにやさしい
あたたかい話題をとどけます！

1月29日（日）[毎年1月最終日曜日]は、世界ハンセン病の日



映画「もののけ姫」の一場面でハンセン病患者を描いたことを、映画監督の宮崎駿さんは明らかにしています。登場する包帯姿の人々で、ハンセン病患者と明示してはいませんが、「業病（ごうびょう）と言われながら生きた人を描きたかった」と述べました。国立ハンセン病療養所多磨全生園（東京都東村山市）を訪れ、ハンセン病について感じたことが作品につながったそうです。

熊本県合志市にある国立ハンセン病療養所「菊池恵楓園（けいふうえん）」の歴史資料館が今年5月にリニューアルオープンしました。300点以上の資料が展示されており、ハンセン病問題及びハンセン病差別のなかで力強く生き抜いてきた恵楓園入所者らの人生を後世に伝えています。

ハンセン病はまずなにより「知る」ことが第1歩になります。「世界ハンセン病の日」を機に、ひとりひとりがハンセン病の理解を深めていくことが大切です。

じんけんコラム ホツと♡スペース 2023.1 「世界ハンセン病の日」

「やさしい日本語」で伝えよう！

「やさしい日本語」の取り組みは、1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに、外国人への情報提供方法の一つとして始まりました。震災が起こったとき、日本語も英語も十分に理解できず、震災時に必要な情報を受け取ることができなかった方が多くいたことに端を発します。災害が起きたときの連絡などは、できるだけ「やさしい日本語」で伝えなければ、命にかかわります。

普段何気なく話している日本語をやさしい日本語に置き換えて話すことで、外国人にも伝わりやすくなります。外国人だけではなく、こども、高齢者、障がいを持つ人にとってもわかりやすい言葉です。

「この言葉で伝わるかな？」と寄り添う気持ちが「やさしい日本語」になるのではないのでしょうか。

じんけんコラム ホツと♡スペース 2023.2 「やさしい日本語」

「人間に光あれ」(全国水平社宣言より)



日本国憲法は、生命、自由及び幸福追及に対する国民の権利を尊重し、「すべての国民は法の下に平等であって、人類、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において差別されない」ことを規定しています。このように、個人の尊厳を重んじ、基本的人権を保障することはとても大切なことです。社会の中に根強く残っている不合理な同和問題を解消するには、法の下での平等の原則に基づき、人権尊重の精神を貫くことが重要です。

未来を担うすべてのこどもたちにも、この問題はいろいろと形を変えて襲いかかってきます。人権教育・啓発につながる活動が、一人ひとりを大切にする取組として家庭・学校・地域そして全国へと広がっていくこと。そのことがこどもたちの未来を「光」あるものにしてくれるはずです。公民館でも啓発活動を進めていきます。

じんけんコラム ホツと♡スペース 2023.2 「同和問題、人権教育・啓発」

